

# 令和7年度 真庭市立湯原中学校 学校経営計画書

## 1 内外の環境分析

本校は1992（平成4）年に二川中学校・湯原中学校の両校が統合し湯原町立湯原中学校となった。そして2005（平成17）年に町村合併により真庭市立湯原中学校に校名を改称した。

また、本校は米子自動車道・湯原I.C.にほど近く、学区のほぼ中央には岡山県三大河川の一つである旭川が流れ、全国露天風呂番付・西の横綱「砂湯」をはじめとする5つの温泉場や、岡山国体で競技会場となった湯原クライミングセンター等の観光・文化資源もあり、緑豊かな自然に恵まれ、落ち着いた環境のもとにある。

■総合的な学習の時間に『湯原学講座』と称し、学区内の事業所等と連携し、地域の人・もの・ことに関わりながら、郷育を核としたキャリア教育を推進している。

■在籍生徒数が少ないことを利点とし、一人一人に寄り添った個別最適化学習、ICT活用による授業のユニバーサルデザイン等の在り方を追究しつつ、インクルーシブ教育を推進している。

## 2 学校教育目標

### 新しい時代を生き抜く生徒の育成

## 3 本校のミッション(使命・存在意義)

■義務教育9年間を見通した教育の実践を行う。

（学校運営協議会・地域学校協働活動との連携を通して小中連携を図る）

■様々な経験を通して主体的に考え・判断・行動できる生徒を育成する。

（自己肯定感・問題解決能力・コミュニケーション能力・自己管理能力の育成）

■郷土を誇りに思い、社会（地域）貢献を果たすことのできる生徒を育成する。

（湯原プロジェクト学習を基盤とした系統的な探究学習）

■「学習の基盤」となる資質・能力を育成する。

（非認知能力、ICT活用能力、家庭・放課後学習の充実）

## 4 本校のビジョン（将来像・目指す姿）

### （1） 目指す学校像

- ・生徒が安心して学べる学校
- ・夢や目標を語り合える学校
- ・地域と連携・協力する学校

### （2） 目指す生徒像

- ・主体的に考え、判断・行動できる生徒
- ・夢や目標の実現に向けて努力する生徒
- ・学習の基盤となる資質・能力を身につけている生徒

### （3） 目指す教職員像

- ・子どもを愛し、情熱と使命感を持った教職員
- ・保護者や地域と協働し、教育を推進する教職員
- ・地方公務員として職責を自覚し、服務規律を遵守する教職員

## 5 本年度の重点目標

# 言語活動を充実させた授業づくり

## 6 本年度の指導の重点

### (1) 【知】自ら深い学びに向かっていく力の育成

- ・言語活動を充実させ、生徒自身が納得感をもって学びを進める取組の実践
- ・知的好奇心・探究心をあおり、生涯につながる学力の習得
- ・ICTの活用等を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・家庭学習・自主学習と連動した授業の実践

### (2) 【徳】豊かな心と望ましい人間関係の育成

- ・自分と向き合う力を柱に、非認知能力を生活に活かせる生徒の育成
- ・教育活動全体を通して、思いやりの心や命を大切にす教育の推進
- ・他者とつながりながら、取組をやり抜くたくましさや生きる力の育成

### (3) 【体】健康・安全教育の充実

- ・自助・共助の精神を培い、安全についての実践的な能力の育成
- ・心身ともに健康で困難な課題も乗り越えるエネルギッシュな生徒の育成

### (4) 【郷】ふるさと湯原を知り、大切に思う生徒の育成

- ・湯原学を通して地域に貢献する生徒の育成
- ・ホームページ等を活用し、地域に開かれた学校づくり

## 7 本年度の学校経営アクションプラン重点目標（知・徳の領域）

（知の領域）

○「自ら考える、まとめる、話し合う、伝える」

（徳の領域）

○「自己指導能力の育成」